

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2004/04/24 Vol. 27 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 16 年第 1 回定例会報告 (4)

いつもお世話になっております。印西市議会第 1 回定例会 (3 月議会) は、議案審議が多岐にわたり一日延会して、3 月 25 日 (木) までの会期となり終了しました。今回は、市民の皆様からの「請願」について、ご報告して参りたいと思います。

議案審議とその結果 (1)

請願 16 - 1 「容器包装リサイクル法」の見直しを求める意見書を国に求める請願書 について
(結果 / 可決、可決した後「意見書」を国に提出いたしました。)

請願の内容 (抜粋) / 容器包装リサイクル法では、容器包装廃棄物を地方自治体が収集・分別・保管し、製造者等の事業者がそれを引き取り、再商品化することを義務づけているが、実際は地方自治体の費用負担は事業者の 4 倍にもなっていて、財政を圧迫している。また、この制度では事業者が真剣にごみ減量に取り組む意欲が働かず実態がともなっていないのが現状である。

1. 容器包装リサイクル法を改正し、収集・分別・保管の費用を製品の価格に含めること。
2. 減量、再使用、再生の優先順位で推進するさまざまな手法を盛り込むこと。

(以上を国に対して、印西市議会が「意見書」として文書により提出して欲しいという内容です。)

この請願は、生活クラブ生活協同組合 千葉 印西栄支部 様からいただき、私が副委員長を務める「市民経済常任委員会」で審議を行いました。委員会では印西市の分別収集の現状やリサイクルに関わる問題点を印西市生活環境課および紹介議員から説明を受け、内容を検証しました。結論として、市民の税金が使われる以上、例えばペットボトル飲料の価格があがっても「受益者負担」の原則で考えた場合、「相応の負担はしていただくべき」との意見で全員賛成し、本会議での採択となりました。

< ぐんじとしのりから 解説 >

容器包装リサイクル法の目的の一つは「廃棄物の減量化」ですが、実際のシステムでは減量化を達成できないという問題を内包しています。そもそも、この法律は、製造事業者がリサイクル費用を負担するシステムですが、実際はリサイクル費用の大部分をしめる収集運搬は全て市町村負担で行われています。リサイクル費用の一割程度をしめる再生費用もその一割程度を市町村が負担する。また、製造事業者は直接再生事業をするわけではなく、指定法人に委託して僅かなお金で済ませられるというのが実情です。一方、事業者側ではこの法律により負担が求められるとなった現在、容器包装をリサイクルしやすい素材にしたり、容器包装を省くといったインセンティブが働かずに、逆に少しでも再商品化費用の負担を減らそうと大量生産に踏み切っているのではないのでしょうか。(つまり製品の製造費用に対する容器包装の費用の比率を少なくするために。)

再商品化費用を事業者が払っているということを直接的に表すためには、ドイツのグリーンポイントのようなものが考えられます。これは容器包装ひとつひとつに対しグリーンポイントの使用料金を協会に支払う方式です。これにより事業者及び消費者は再商品化費用を負担することになります。この方式を押し進めて、商品一つ一つにいくらの再商品化費用が掛かっているかが表示されれば効果的だと思います。例えばレジで精算するとき、通常は消費税の項目はあるが、新たに容器包装費用の項目もつける。これだけでも消費者にとってリサイクルに費用がいくらかかるか明確になりますが、

これらの機能をより効果的にするためには、例えばプラスチックやその他の複合材料などリサイクルしづらいものには、より高額な再商品化費用を設定する必要があるのではないのでしょうか。この容器包装費用を個々に表示する方法を使えば、プラスチックのリサイクル費用が高いことを消費者にわかっていただくことができます。そして、徐々にビン・缶などの製品に移ると考えています。最終的にリターナブルビン(それも大容量のもの)の売上げが大きくなれば、容器包装に関する廃棄物問題は解決とは思いますが、時間はかかるでしょう。廃棄物問題、市民のみなさまはどのように考えますか？

印西市議会 会派「市民自治ネットワーク」を結成しました。

会派「まちづくり研究会」を脱退した後、一人で活動して参りましたが、今回、増田葉子議員と会派を結成し、活動を行って参ります。

結成した会派の目的は、「市政の情報公開により、開かれた民主的な議会を目指し、市民自らが考え、行動するという市民自治の理念を推進し、実現をすることに寄与すること」です。

今後、市民ニーズ把握の為の公聴活動や報告活動を積極的に行っていきたいと思っております。

合併協議の現在

2市2村の合併協議が大詰めを迎えております。14日の法定合併協議会では新市の名称が「北総市」と決定し、今月末～来月にかけて合併にむけての「確認書」*が取り交わされる予定になっております。また、今後印西市では合併にむけて、市民へのアンケートが早急に行われ、住民説明会も開催される予定です。(市内5ヶ所の予定)

しかし、「合併はまだ決まったわけではありません。」最終的には、2市2村で開催される7月～8月にかけて**の「臨時議会」の採決により合併に可否が決定されます。

(合併には、2市2村全ての議会での賛成が必要です。)

* 「確認書」 通常ならば、合併協議が完了した後は、法定協議会への参加自治体による協定書への調印によって、協議を終了するのですが、今回は「確認」するに留まるようです。

** 「臨時議会」 印西市長選挙と白井市での「(合併についての)住民投票」が開催されます。7月11日(日曜日)以降に開催される予定となっております。

5/16(日曜日)「(仮称)合併を考える市民集会」を開催します。

今回、市民アンケートの実施の前に、我孫子市の福嶋市長***をお招きして、「柏市、沼南町」との合併協議から脱退し、独自路線をどのように歩もうとされているのか、我孫子市が推し進めてきた「市民自治の政策」を今後どのように考えているのかお聞きしたいと思います。市民の皆様と合併を考えるヒントになればと思います。是非、お越しく下さい。

場所/中央駅前センターにて (時間/午後2時～午後4時) 入場無料

主催/印西市議会会派 「市民自治ネットワーク」 白井市議会会派 「市民の声」

*** 我孫子市の福嶋浩彦市長は昭和31年生まれ、現在3期目、全国青年市長会 元会長。我孫子市を「市民と行政の協働」による先進自治体にしてきた手腕にて、全国に名前が知られています。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

ぐんじとしのり